

【小学校の部】 優秀賞

ぼくの挑戦

豊後高田市立香々地小学校 6年

坂本伊葡希



「千メートル3分18秒」この記録は、初めてぼくが1位を取りメダルをもらった記録である。この5年生の夏の大会が、ぼくの陸上に対する思いを変えた。

2年生の時に、兄をまねして市内の陸上部に入ったのだが、ぼくの兄はとても速かったので当然いつも追いつくことはできず、ぼくの走りはいつもどたばたしていた。でも、走ることは好きだったので、いつか兄に追いつけるようにがんばろうとずっと思っていた。3年生の時に初めて約2kmのコースを5人でつなぐ地元の駅伝大会に出場した。「よし自分がいい走りをしていい記録でつなごう。」と心に決めて走ったが、結果は3位であった。前を走る人に追いつきたいのに追いつけないそんな自分がもどかしかった。もっと速くなりたいという気持ちがこの時、とても強くなった。

さらにその気持ちを強くしたのは、その頃に新しく入ってきた同じ学年のちがう学校の男の子との出会いである。その友だちは、入って1ヶ月もしないうちに、自分のベストを40秒もぬりかえ、その時の6年生でも追い抜かれるくらい速かった。周りがびっくりするくらいの速さだった。

最初は、あまりの速さに圧倒されていたが、だんだんとぼくも速くなって、この友だちを絶対に追いぬきたいと思うようになった。そのために、自分に足りないものはなんだろうかずっと考えた。たどりついた答えはあたり前だけど、「努力を続ける」ことである。とにかく、毎日、自分の考えたメニューを全力で続けようと思った。きっとその先に何かがみえると信じて。

毎日、学校が終わってから1.5kmを全力で走ることを心に誓った。時には、少しきつくてちょっとくらい力を抜いてもいいかなと思う時もあった。でも、ぼくはその友だちに追いつきたかった。いや、追いぬきたいのだと、自分自身にはっぱをかけ、とにかく毎日全力で走ることを続けた。

その努力が実ったのが、5年生の夏の大会だったのだ。その時から、ぼくは必ず表彰台にのれる記録をだせるようになっていった。まだまだあの友だちには追いつけないけれど、少しずつタイムは近づいている。

その友だちとも前よりもいろんなことを話せるようになった。話すたびに思うのは、速い人も必ず他の人がしていないような努力を続けているということである。

ぼくは、兄の影響だったけれど、陸上に出会ってよかったと思う。力を合わせる仲間、そして、自分の目指す友だちに出会い、ぼくの「目標」がはっきりした。いつか、この友だちや兄の記録を追いぬく。それが、ぼくの大きな目標である。

ぼくの挑戦は続く。まだまだずっと。自分が「最高!」と思えるタイム、瞬間に出会うその日が楽しみだ。